



新年最初の一斉下校(1月6日)



# ほうない

第11号

 村上市立保内小学校  
**強い心 豊かな心**

〒959-3107

村上市下鍛冶屋264-2

TEL0254-62-2302

FAX0254-62-5553

二〇二〇年の年頭にあたりまして、  
 新年のごあいさつを申し上げます

校長 須貝 学

皆様、新年明けましておめでと  
 うございます。雪のない穏やかな  
 正月とともに二〇二〇年を迎えま  
 した。新元号の「令和」になって  
 から初めての新年を迎えました。  
 今年の干支は、十二支の最初に  
 戻って「子年」、ネズミに当たる  
 わけですが、60年周期で循環する  
 干支で正確に表すと「庚子（かの  
 え・ね）」の年となります。

干支が一周となる60年周期は、  
 時代の一区切りとして、しばしば  
 用いられます。一月三日の新潟日  
 報にも、60年前と現在を比較した  
 「数字で見る新潟の子ども」とい  
 う記事がありました。それによる  
 と、新潟県では児童数が、60年で  
 七割も減少したということです。  
 現在の県内の小学生は約10万9千  
 人で、ピークだった一九五八（昭  
 和33）年が、約39万2千人でした。  
 また、県内の小学校の数は、昨年  
 が465校で、ピークだった五四  
 年の1055校の半数以下まで減  
 ってしまいました。  
 それでは、保内小学校の60年前  
 はどうだったのでしょうか。

前回の「庚子（かのえ・ね）」  
 の年、一九六〇（昭和35）年の保  
 内小学校の記録を調べてみました。  
 当時はまだ貝附分校があり、本校  
 と分校を合わせて児童数一〇六八  
 人のマンモス校でした。本校では  
 一年生から三年生まで3学級で、  
 四年生から六年生までは4学級も  
 ありました。児童数は、やはり県  
 と同じく約7割の減少となります。

また、当時の学校の保健教育の  
 中に位置づけられた、主な事業の  
 一つに「ネズミ、蠅、蚊の撲滅」  
 という記録がありました。自分が  
 小学生の時、自宅で捕まえたネズ  
 ミの尻尾を学校へ持っていくと、  
 一本10円と交換してもらえたとい  
 う記憶が蘇ってきました。時代と  
 ともに、学校や生活環境もずいぶ  
 んと変わるものだ、あらためて  
 感じました。  
 小学校では、教育課程の基準と  
 なる新しい学習指導要領が四月か  
 ら始まります。外国語の教科化や、  
 プログラミング教育が位置づけら  
 れるなど、二〇二〇年は保内小学  
 校にも大きな変化の波が押し寄せ  
 る一年となることでしょうか。